

白山神社と神光寺 今宮



I 白山神社の概要

- 名称 白山神社
- 住所 関市下有知6362 (今宮)
- 祭神 **菊理姫尊 (くくりひめのみこと) = 白山比咩大神**
伊邪那岐命 (伊弉諾尊) イザナギノミコト
伊邪那美命 (伊弉冉尊) イザナミノミコト

■ 合祀されている神社

- ・秋葉社・・・9月に祭礼を行います。 秋葉社祭礼
- ・津島社・・・11月に祭礼を行います。

■ 由来・・・泰澄が洲原神社の次に創建した神社

今から約 1300 年前、元正天皇の御代養老 3 年、越前國足羽郡麻生津村 神職三神安各二男**泰澄** 加賀國白山神社 (養老年元・西暦 717 年) を創立する。次に長滝白山神社、洲原

神社を創建し、次にこの地に来り本社及び観音堂、神光寺等を創建する所にして **養老3年（西暦719年）**の鎮座なり。

Ⅱ 白山神社の歩み

応仁の乱にて兵火に見われ焼け落ち、元禄五年再興されるも戦火により焼亡する運命を歩いてきている

奈良時代の頃（10世紀）、神仏習合の風習するため***本地垂迹説**を唱え、神社の維持、運営は他の寺院、宿坊が管理運営にあっていた。

***本地垂迹説**・・・仏・菩薩が、衆生節度のために仮の姿をとって現われること。

本地垂迹説では、日本の神は仏・菩薩の垂迹であるとする。

白山信仰では、菊理姫尊（くくりひめのみこと）＝白山比咩大神と十一面観音菩薩は同じであるとされる。

神光寺などは白山講の権利を獲得し、御師と呼ばれる者が白山講の人達に宿の提供、道案内をした。（関市史より）

白山への参拝者は、近江、尾張方面、飛騨街道などから関を通過して、下有知の神光寺（白山神社）、洲原神社に参り、長良川沿いに長滝、石撒白へと進んだ。

幕末の頃には、民衆の力が高まり、長らく鎖されていた神仏習合の体制も崩壊し始め、神仏分離の機運に傾き、神社の財宝の管理、運営は氏子に委ねられるようになった。

約200年位前（江戸時代中期）、白山信仰が盛んで洲原神社様と列なつて、信仰者が頻りに参詣したという。参拝者の煙草の吸殻を捨てたのが火事の元、神光寺も白山神社も、大火災になり、経文、宝物、記録全て全焼した。

その後本社を現在の地に下した。*元の地を奥の院と称す。幾つかの礎石が残っている。
<白山神社記 天野一市著より抜粋>

奥の院・・・現在、神光寺墓地西側の竹林の中から小道があり山頂へ登れる。山頂には弘法大師を祀る。はっきりしないが、この場所の近くと思われる。

最近では、明治四年に再建されている。明治六年村社となるが、戦後は氏族の神社として細々と守られてきている。<神社庁HPより抜粋>

Ⅲ 神仏習合の白山神社

●神仏習合でドタバタさわぎ

明治元年、笠松代官に呼び出され、神仏習合の祭礼行事（神楽など）について尋問されたが許可され神楽は続いた。

明治時代県庁に神社庁がおかれ監督が強化された。神社は官幣社、国幣社、県社、御社、村社、無格社に各付決められた。白山神社は村社となった。

戦後、村社から氏子神社へとなり、氏子が自由に祭事が行うことが出来るようになった。

一難去って、さらに一難。昭和25年頃県神社庁から白山神社は、「神仏習合」の風習があると言われたが、神仏習合について説明し一件解決した。以来祭礼はひきつづき行われた。明治以降も苦難にみまわれたが、祭礼はつづいた。

戦後最大の危機は、昭和34年9月26日の伊勢湾台風である。今宮でも多くの家屋が全壊し、白山神社、神光寺も難を逃れることは出来なかった。氏子の努力もあり昭和37年なんとか復興完成を祝う事が出来た。

最近、氏子で若い方が少なくなり御輿などの祭礼行事が徐々に簡素化されている。

● 住職が神前でお経を唱える祭り

祭礼では、この地域ではめずらしい事が行われている。4月の試楽祭と秋葉神社の祭礼において、普通祭りの斎主は神職であるが神光寺の住職が斎主となり、白山神社本殿と秋葉神社に神前でお坊さんがお経を唱える珍しい光景が展開する神事が行われる。

この地域の氏子は当たり前のようにこの光景を見ている。なんとまさしく【神仏習合】の光景である。明治になると【神仏分離】が厳しく行われ、神社とお寺が分離した所もあるが、この白山神社では今尚神仏習合が生き続けている。

明治初年、笠松代官（当時の岐阜県庁みたいな所）に呼び出され、神仏習合の祭礼について呼び出され喚問された。「神楽は如何なることをするか」と問いただされ、山田増吉さんが立ち上り、声高々に神楽の前段の囃子はやしを笛、大太鼓、小太鼓を打つ身振り、手振りで面白く口ずさんで、太平神楽の地歌を歌いながら神楽を手振り足踏みをして面白く舞った。

代官は感じ入って、「これが太平楽の神楽か、上手だ、面白い、神楽だ、差し支えない、許す。祭礼を許す。」といわれた。これにより明治、大正、昭和と祭礼はつづいた。

* 神仏習合の例・・・祭礼を寺の住職が行う



9月秋葉神社祭礼（神光寺）



4月試楽祭（神光寺）

<明治以降>

明治4年	再建された
明治6年	「村神」となる 氏子62戸
戦後	村社から氏族神社へ
昭和34年9月26日	伊勢湾台風襲来、大きな被害を出す
昭和37年4月	伊勢湾台風 復興完成式行う、ヨンヨイ行列廃止
平成15年3月	拝殿立替完成 竣工式
平成20年頃より	祭事は氏子高齢化により順次簡素化される
現在は、今宮氏子にて管理 氏子約110戸	

IV 白山神社祭礼（現在）

古来から白山神社の五月祭礼は、中組の御輿野齋場*①（現在は中組公民館、駐車場）にて執行されてきた。昭和47年から新齋場地（白山神社境内）に変更し行われている。

（白山神社記天野一市著）

春の例祭は従来の4月祭りと5月祭りを一緒に4月に行われている。

*①御輿野は現在でも白山神社の管理地である。

● 三大例祭

- ① 祈年祭・・・・・・2月 第三日曜日
その年の五穀豊穰・安泰幸福を祈念する。
- ② 例祭（春祭り）・・試楽祭 4月 第三土曜日 午後1時ころより
本楽祭 4月 第三日曜日 午後1時ころより
ご祭神に感謝し、地域及び氏子の安泰を祈願する。
- ③ 秋祭り 新嘗祭と湯の花まつり・・12月 第二日曜日 午後1時ころより
・新嘗祭・・・・新穀を神に奉り、五穀豊穰を感謝する。

・湯の花祭り・・・笹の葉を釜の湯に通し、滴りを受けて身を清め、心の穢れを払い、災を取り省く。

● その他の例祭

- 7月 天王まつり（津島神社）
- 9月 秋葉神社祭礼・・・第三日曜日 午後1時ころ（白山神社境内）
- 9月 無事祈願祭
- 11月 御神送り（出雲大社）
- 4月 例祭の様子
- 12月 湯の花まつり



12月新嘗祭



2月 祈年祭



関市の北部 下有知今宮（字）にお祀りされています。入口は神光寺境内鐘つき堂の横に鳥居があり、参道を登ると参拝殿があり、この前で例祭が行われます。

● 祭りの主役は地域の氏子

今でも神光寺西入口の観音下には「大門屋敷」と言う地名が残り、神社を下に西屋敷、中屋敷、新屋敷の地名も現在有ります。この4屋敷（部落）で氏子が構成されており、主祭礼はこの4屋敷氏子が交代で（当本）行い。その他の祭礼は、4屋敷代表の年行司と言う役が行います。（祭礼は別紙）

参拝殿は、山の中腹にあり、階段を数十段上がり参拝殿前にてお参りください。

V 白山神社の「ヨンヨイまつり」（昭和43年頃まで行われていました）

ヨンヨイと言うのは、「世がよい」という意味で、ヨイヨイの掛け声からつけられた名称

であると言われている。

御神馬・太鼓・法螺貝・唐櫃（からびつ）供物箱が都茂恵社（神楽の結社）の若衆の神楽囃子に囃されながら練りゆく様子は、正に天下泰平の絵巻物であったという。

当家の家から白山神社に到着し、供物を神前に供え、神官の修祓・祝詞・玉串奉奠等一式終わって神楽舞を奉納し、御輿渡御行列となる。表・裏参道、観音境内を通り、三回巡り、観音本堂前で神楽舞を奉納すると、いよいよ渡御行列が始まる。上の街道（県道江南線）を通過中組の御輿野（現在の中組公民館・白山神社の敷地）までの渡御である。凡そ七百mの御旅である。

渡御行列（ヨンヨイ行列）は第二次大戦中一時中止をしていたが、昭和21年より復活したが、昭和43年頃中止された。（関市史近代P411・白山神社記天野一市著）

*現在は、白山神社内で大幅に規模を縮小し例祭として4月に行っています。ぜひご覧ください

現在の祭礼行列



御輿2騎（大・小）



（御輿 大 約 120kg 位 担ぎ手8名、小 約 60kg 位 担ぎ手4名）

白山神社参拝殿（山の中腹）と神光寺本堂前を三周する。大変厳しい祭りです。担ぎ手の減少のため、現在は白山神社拝殿前（写真）にて行っています。

VI 宝 物（拝観はできません）

● 木製の狛犬

狛犬（こまいぬ）・・・木製の狛犬です。奈良時代？の作品と言われております。

右手は、口を開けた獅子（阿形）、左手が口を閉じた狛犬（吽形）

現在は拝殿前に石で出来た狛犬があります。

*木製の狛犬は非常に珍しいです。ご覧になりたい方は、白鳥町白山文化博物館内にあります。 当白山神社には置いてありません。



木製の狛犬



石の狛犬（拝殿前）

古来から日本に住んでいない獅子、龍などがあるのでしょうか？仏教伝来との関係は？

● 刀と土器 源頼朝が寄贈した刀か？ 年代など不明

一節には、天喜元年（1053）源頼義がこの地に立寄った際に刀を寄贈したとされる。（関市史）（白山神社記）が、錆びていて判別できません。

伊勢湾台風後、境内整理の際、白山神社旧本社跡（今宮山）から錆びた刀が出土したのが、この刀ではないかと言われている。（白山神社記に記載）



手前のケースの中が刀（詳細は神光寺覧に記載しています）

*木製の狛犬及び刀は、当白山神社には置いてありません。

Ⅶ 白山信仰について

● 泰澄（たいちょう）について

泰澄は、天武天皇11年（682）、越前國足羽郡麻生津（あそうず）村に生まれ、故郷の越智山（おちさん）にて修業に明け暮れた。養老3年（717）弟子と共に白山に登頂し開山した。

*泰澄・・・天武天皇11年（682）に、越前麻生津（あそうず）にて生まれる。

養老元年（717）	36才	白山山頂に登頂	開山
養老5年（721）		洲原神社創建	（正一位）
養老3年（719）		下有知村白山神社創建	

Ⅷ 祭 神

全国の白山神社の総本宮である白山比咩神社の祭神は「白山比咩大神＝菊理媛尊^{くくりひめのみこと}」です。

『日本書紀』によると、天地が分かれたばかりのころ、天の世界である高天原(たかまのはら)に、次々と神が出現し、最後に現れたのが、伊弉諾尊(いざなぎのみこと)と伊弉冉尊(いざなみのみこと)でした。この男女の神には、国土を誕生させる「国生み」と、地上の営みを司る神々を誕生させる「神生み」が命じられました。

伊弉冉尊が火の神を出産した時のやけどで亡くなってしまうと、悲しんだ伊弉諾尊は、死の国である「黄泉の国」へ妻を迎えにいきます。ところが、醜く変わった妻の姿を見て伊弉諾尊は逃げ出してしまい、怒った伊弉冉尊は夫の後を追います。黄泉の国との境界で対峙するふたりの前に登場するのが**菊理媛尊**で、**伊弉諾尊・伊弉冉尊二神の仲裁**をし、その後、夫婦神二神が成り国生み神産みが行われ、**天照大御神(あまてらすおおみかみ)**や**月読尊(つくよみのみこと)**、**須佐之男尊(すさのおのみこと)**が生まれます。

<白山比咩神社HPより>



白山市 白山比咩神社



菊理媛尊像(青木哥彦画)

菊理姫尊 (白山神社HPより)

白山比咩神社のデータ<参考>

- 創建年・・・崇神天皇7年(紀元前91)
ご祭神・・・白山比咩大神(菊理媛神)、伊弉諾尊^{いざなぎのみこと}・伊弉冉尊^{いざなみのみこと}
ご利益・・・縁結び、五穀豊穰、漁業守護

白山信仰三馬場・・・天長9年(西暦832年)三馬場が開かれる。

(白山神社HPより)

白山神社の神を祀る社は、全国に二千七百を数え、その中心となるのが、白山の頂上への登山道(禅定の道)の三つの拠点である。平安時代初期には白山の三馬場と呼ばれている。鎌倉時代の最盛期には六谷六院満山衆徒三百六十坊と称され、旧高山市を含む飛騨の国西半分、一万三千石が神領であった。室町時代に入ると「上り千人、下り千人、笠の端も触れ合う」と言われるほどのにぎわいをみせた。

こうした流れを受け、天長九年（832）に加賀、越前、美濃に馬場は開かれた。これは白山登拝の拠点基地であり、名称の由来は、【馬をつなぐとめた場所】【馬では進めない神域の入り口】などの諸説がある。

三馬場は、それぞれに発展し、教団化し宗教都市を形成する。美濃馬場長滝では広く東海・関東に信者を抱え、美濃禅定道（参詣道・登山道）は大いににぎわったと伝える。

今日もなお、長良川沿いには多くの神社、寺院や遺跡・古道が残されており、先人達と同様の道をたどることが今でも出来る。（長良川流域観光推進協議会案内文より抜粋）

この白山信仰の中核となるのが、白山比咩神社である。同神社は白山市三宮町の里宮を本宮とし、山頂の社を奥宮としている。主祭神は白山比咩大神だが、白山自体がご神体のため、同神は、示現（出現するときのお姿）と考えられている。

白山信仰は、幅広い層が担った。武家では鎌倉幕府を開いた源頼朝による寄進や、江戸時代の加賀藩前田家による祈願が知られている。

下記神社にて1300年祭を開催中です、（H29年）

● 「白山の三馬場」

加賀・・・白山比咩神社（しらやまひめじんじゃ）	石川県白山市
越前・・・平泉寺白山神社（へいせんじはくさんじんじゃ）	福井県勝山市
美濃・・・長滝白山神社（ながたきはくさんじんじゃ）	郡上市白鳥町
長滝寺（ちょうりゅうじ）と併設	



白山市 白山比咩神社



勝山市 平泉寺白山神社



白鳥町 長滝白山神社



白鳥町 白山文化博物館

*白山は北陸と中部にまたがる徐代な山塊の主峰であり、「御前峰」「大汝峰」「別山」など

からなっている。

*白山神社三馬場めぐりはいかがですか（例）

・・・関 下有知 白山神社・・・R156・・・洲原神社・・・①長滝白山神社・・・
R158・・・九頭竜・・・②勝山平泉寺白山神社・・・R157・・・手取湖・・・③白山比咩
神社・・・などのコースで白山三馬場めぐりが出来ます。
洲原神社、中居白山神社も参拝ください。



石徹白 中居白山神社



美濃市 洲原神社

☆洲原神社・・・ 白山信仰の前宮として崇られている神社。縁結び、農耕の神

<ご協力者・参考文献他>

- 1、白山比咩神社HP・洲原神社HP・神社庁HP
- 2、白山神社記 1978年（天野一市著、責任氏子総代を21年間務める）より抜粋
- 3、関市史 通史編 古代・中世・近代より抜粋
- 4、株式会社洋光社 日本の十五大神社より抜粋
- 5、白山開山1300年祈念 長良川白山旅手帳（長良川流域観光推進協議会）より抜粋
- 6、監修 代表氏子総代 天野邦男（H29年）
宮司 大野勝己
禰宜 天野善一
- 7、写真 天野俊男、堀敦夫
- 8、製作 天野俊男

（白山神社 平成29年12月製作）

【下有知のみなさまへ】製作者より・・・

皆様の参考となればと思い記載しました。記載内容については諸説ありますが、ご指摘などありましたらご意見をお寄せ下さい。「しもうちコミュニティ 白山神社」までメールか文面にて申し出ください。

記載内容につきましても不定期に更新をいたしますのでご了承ください。

●白山信仰にかかわる寺院 今宮山 神光寺 高野山真言宗

(一部白山神社と内容が重複いたします)

- 所在地 関市下有知6329-1
- 宗派 高野山真言宗
- 本尊 十一面観音菩薩
- 創建年 養老三年(719)
- 開祖 泰澄
- 中興 真栄 慶長元年(1596)
- 札所
 - ・美濃西国三十三観音霊場 二十四番
 - ・美濃新四国八十八ヶ所霊場 第二十二番札所
 - ・中濃八十八ヶ所霊場 四十三番札所

神光寺本堂



仁王門



■ 日本の神々と外来の仏が融合した 神仏習合の場所

神仏習合とは、日本固有の神々への信仰と外来の仏教が融合したかたちを言う。世紀に百済から日本に伝来した仏教は、一言で言えば【信じていれば願い事は叶う】と言う事である。教えに魅せられた大和政権は、国家鎮護の目的に為、国をあげて仏教の受容に務めた。その結果、日本は東アジアでトップクラスの仏教大国になっていく。この現象は、仏教立国化の最中に起こった。仏教側の働きかけにより、日本固有の神々

が仏教に取り込まれた。

本地垂迹説（ほんじすいじゃくせつ）によって神社の本地仏が定められた。白山神社の本地仏を祀った別当寺が「神光寺」であった。したがってこの神社も泰澄によって創建・開基されたと伝えている。

本尊として、十一面観音像が二体ある。二体とも平安時代後期の作と言われている。他、鎌倉時代初期の地藏尊像、大日如来像。泰澄大師像などある。

泰澄大師が養老三年に洲原神社、次に神光寺を創建し、次に願成寺（岐阜市大洞）を創建したと言われているが、泰澄大師創建は後世に作成された付会と言われている。

神光寺は、慶長元年（1596）高野山南谷増福院の真栄により再興され、高野山派の真言宗寺院となる。

それ以前は、史料が無いため明らかでない。（関市史 近代編）

・・・下有知地区北部の白山山南麓にある、高野山真言宗の神光寺は縁起によれば、養老三年（719）泰澄が洲原神社について寺と白山神社を建立して白山権現を祀り、空海の巡錫もあり、観音経一卷が納められたと伝える。その後、後冷泉天皇の勅願寺になり、円仁作の十一面観音像を本尊とし、空覚を導師に請じて、衆僧1200人による上棟供養を行った。その頃十二坊があったと言われる。（関市史通史編近代P140）

この寺院は、戦国期の動乱の際に消失したが、江戸時代になって世情がおさまってくると、人々の信仰に支えられて漸次諸堂が建てられた。同じ森の中に白山神社が鎮座して居るが往古の神仏習合の姿を物語っている。（関市史通史編近代P434）

曾代用水開削の際は住職の眞澄が開削を主導した喜田吉右衛門、柴山伊兵衛、林幽閉、を祀る井神社を創建した。井神社は明治41年（1908）に寺外に移されている。また、柴山伊兵衛の墓が寺内にあるなど、曾代用水にかかわりの深い寺である。



柴田伊兵衛の墓 神光寺境内 白山神社鳥居の横にある。（下有知HPより）

■神光寺の言われ・・・源頼義・平泉中尊寺と深い関係が

天喜元年（1053）陸奥国で安倍頼時が反乱を起こした時（*前九年の役の際）源頼義・義家親子が遠征の途中、この地に来た。その夜半に不思議な神光が現れて、頼義の頭を照らし、一里四方に雪が降ったという奇瑞があった。頼義は感ずるところがあり、「太刀一振り・白旗一旒」を寄付した。その後安倍氏を平定した。時の天皇は大変喜びし、ここに源頼義を来させて神社仏閣を残らず造営させた。雪の降った一里四方を寺領にし、神光の奇瑞によって、寺の名前を「神光寺」としたと有る。（奥州平泉文書に記載）山を「今宮山」慶長元年(1596)と号するようになった。（天喜五年（1057））

源頼義・吉池親子が安倍氏を討つに当たり、衣関山月見坂において地主観現の白山・山王の両社を参拝して戦勝を祈願し、その成就をみてミカ尻小前沢を社領として与え、白山・山王が中尊寺山内の鎮守として祭るところとなったと有る。白山と中尊寺の関係は深い。（天喜5年1057 安倍貞任の乱）

■*前九年の役 とは・・・ 永承6年（1551）～康平5年（1062）

時は、平安時代後期 平治の乱が起き、平清盛が太政大臣になる5年前の話です。有名な源義経の5代前の祖父です。当時日本はまだ統一されていなく奥州国では安倍氏と言う豪族が勢力を誇っていた。そこで陸奥守になった貴族藤原登任が挑んだが負けてしまった。次に武士の源頼義が陸奥守になり任期の切れる直前に安倍氏が反乱を起こした。抑えようとしたが出来ず、今度は、近畿、東海、関東等から兵を集め、更に出羽の豪族清原氏を見方に付け、合計10,000人の兵力で有利に戦いを進めようやく安倍氏を滅ぼす事が出来ました。これが「前九年の役」です。

この後に「後三年の役」というのがあります。（各種資料より抜粋）

慶長元年（1596）に高野山の増福院の真栄法印が中興している。この時、場所も山頂から、現在の地に移したのではないかと思われる。

それ以前の参道は、*①横山の麓を迂回し、今宮山を上がって行ったと考えられる。参道はきびしく草木が繁茂し危険であったので、安全祈願の御札を札掛松（洞泉寺橋のたもとにあった「札掛松」）に掛けておいて、御参りに出かけたのだと言う。（関市史より）

（*①今の、洞泉寺門から横山墓地の東側道を抜け、白山神社の東側より今宮山へ登る参拝道であるが、現在は、高速道路で遮断されそれ以上は進めない。）

■円空と神光寺 円空ロード

円空は、寛永九年（1633年江戸初期）年に美濃国で生まれている。

「美濃西国道中記」には、二十四番の神光寺から、二十五番の日龍峯寺への道程が述べられている。行程は三里、神光寺から北へ四町（109m）行き、石地藏を右に、橋を渡り松林の中へ、左右に岩があり、左の山の上に貴船社があり、小野村へ出る。庚申堂から山道で八神の不動堂へ出、山道を通って日龍峯寺に参ったようである。円空は、神光寺を拠点として北へ、南へ足を運んだようである。この道を通称「円空ロード」と言われている。元禄八年（1695）年没（関市史近代P 492）

*円空像は関市で137体、内下有知で9体ある。



*下有知コミュニティHP内には神光寺に伝わる「神光寺の^{あまのじやく}天邪鬼」を掲載しています。ぜひ 見てね

<<http://shimouchi.jp/xoops/modules/xpress/?p=3633>>



^{あまのじやく}神光寺の天邪鬼

2017年12月23日

白山神社平成29年度書記 天野俊男